

巻頭言

「今こそ 正念場!!」

VSCO理事長・弁護士 高原 勝哉



■「忘れられた存在」から「権利の主体」へ

1980年、その6年前に発生した三菱重工ビル爆破事件が切っ掛けとなり、犯罪被害給付制度が発足しましたが、犯罪被害者等の精神的援助の必要性が指摘されたのは、1991年で、その間約10年の歳月が徒過しております。その当時、日本における犯罪被害者支援の取組みは、欧米に比べ20年以上遅れておりました。1999年に公表された全国被害者支援ネットワークの「犯罪被害者の権利宣言」の前文でも、「我が国の犯罪被害者は、生命身体等に重大な侵害を受けた事件の重要な当事者でありながら、長い間刑事司法制度からも社会からも『忘れられた存在』であった。多くの犯罪被害者は、我が国の犯罪被害者支援の充実を願いながらも、声をあげることさえ出来ず、苦しんできた。」ことが指摘されております。

しかし、その後、幾多の紆余曲折を経ながら、多くの関係者や「あすの会」（2000年発足）に結集した被害者の努力や熱意によって、2004年12月、遂に犯罪被害者等基本法が成立しました。その第3条には、基本理念として「すべての犯罪被害者等は、個人の尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利を有する。」と明記されております。被害者は、「忘れられた存在」から「権利の主体」となったのです。その後、2005年12月には「犯罪被害者等基本計画」が閣議決定され、2007年11月には内閣府に設置された犯罪被害者等施策推進会議で経済的支援・支援のための連携・民間団体への援助に関する3つの検討会の最終取りまとめ案が承認されました。県では、同年3月に「岡山県犯罪被害者等の支援に関する取組指針」が取りまとめられました。こうして、昨年、わが国における被害者支援の骨組みができあがったのです。

■今こそ、仏に魂を入れるとき

骨組みができたからといって、警察や司法、あるいは県・市町村の隅々にまで被害者支援の理念や施策が浸透しているか。国民・県民の理解がどこまで深まっているか。支援に関わる各機関・団体のヨコの連携が充分取れているか。予算は充分確保されているか。欧米に追いついたと自慢できるのは、まだまだ先のこと。それぞれが持ち場持ち場で地道な努力を重ねてこそ、被害者支援の骨組みに魂が入るのだと思います。

■VSCOの課題

かくいうVSCOそのものが、「早期援助団体」の指定を受けるレベルまで達しておりません。VSCOは、2003年11月に発足、同時に全国被害者支援ネットワークに加盟、2006年1月に岡山県知事から社団法人としての設立許可を受け、160人7団体の正会員、84人14団体の賛助会員、22人の支援ボランティア（いずれも2008年1月8日現在）の皆様とともに、2008年度中に早期援助団体としての指定を受けることをめざして頑張っておりますが、そのためには、もう一皮むける自覚と努力が必要です。また、そのこととは別に、現在目のおられる被害者お一人お一人のニーズに添ったご支援ができるよう、日々研鑽を積む覚悟です。

皆様、どうぞ、今後ともお力をお貸し下さい。

VSCOは、「地域の力で被害者の支援を」を合言葉に、犯罪被害者を支援する岡山の民間団体です

事件・事故の被害者の声を聴いてください

120名参加して第4回犯罪被害者支援フォーラムinおかやま開催



VSCOでは、犯罪被害者支援フォーラムinおかやまを、犯罪被害者週間中の2007年11月26日に開催しました。



4回目となった今回は、原点に帰り、「事件・事故の被害者の声を聴いてください」をテーマとしました。会場のルネスホール（岡山市）には一般市民や行政・警察関係者など約120名が集まる大盛況。用意した資料が足りなくなるほどでした。

フォーラムは3部構成。第1部は、VSCO協力弁護士・精神科医、県警の皆さんによる犯罪被害者無料相談会でした。

第2部は、この日のフォーラムの中心企画、犯罪被害者（家族・遺族）による講演会やスピーチでした。トップは岩谷利男さんによる講演会。岩谷さんは埼玉県在住で、技術者として引退後、現在被害者支援都民センターの非常勤職員をされています。岩谷さんの次男は、2002年に都内で放火犯を捕まえようとして刺されました。現在は回復されていますが、その時の経験を語り、その中で、警察や支援団体のサポートが有効だったこと、加害者に比べて被害者の権利がまだまだ十分保障されていないことなどを訴えました。

続いて、VSCOが支援を行っている被害者遺族・家族からの訴えがありました。妹さんを飲酒ひき逃げ事故で失った築山さんは、事故を目撃した被害者のお嬢さんが法廷で加害者側弁護士から追及され心に二次被害を受けたこと、刑事裁判の問題点や被害直後からの官民分担しての支援の必要性などを訴えました。

次に娘さんが性暴力被害にあったお母さんは、性暴力が少女に与える心の傷について話しました。また、娘さんを未成年者に殺されたお母さんは、遺族による確認以前に被害者氏名をマスコミ発表した警察の問題点や、加害者には国選弁護人がつくのに、被害者・遺族は自分達で探さなければならず、大きな負担になったことなどを訴えました。



受付風景



バザーも開きました



準備には大勢のボランティアが関わりました

第3部は、岡山県警音楽隊の皆さんによるミニコンサート。なつかしのメロディーのメドレーに耳を傾けました。そして、VSCO支援員による「歌う広報グループ」マドンナ・オブ・VSCOによる「窓の外には」のコーラスでフォーラムを締めくくりました。



第4回 犯罪被害者支援フォーラムinおかやま

“第2部 犯罪被害者の思いを聞いてください”に参加して

「放火犯を捕まえようとして刺された息子—息子の事件を振り返って—」岩谷利男氏（被害者支援都民センター）の講演、性暴力被害者の母の思いを裁判資料より代読、「妹が死亡ひき逃げ事故・遺族になって」築山明生さん（警察官）の思い、未成年者に殺された殺人被害者の母である徳永さん（看護師）の訴えの4件の実情を聞きました。

“ある日突然日常が壊れる”、これが被害者です。何の前ぶれも予測もなく、それは、やってきます。

一本の電話で息子の瀕死を知った岩谷さんは、なにが起こったかわからないまま、息子の命を取りとめる看病に明け暮れました。性暴力被害者の女子高生は、転居してもなお、学校へ行けなくなりました。母のひき逃げ死を目撃した娘は、裁判で陳述させられ加害者側の弁護士さんに追求されました。今も、伯父のもとでPTSD（心的外傷後ストレス障害）に悩んでいます。殺人被害者の母は、娘を追い求めました。母が娘の死を確認する前に実名報道されました。

突然やってくる被害者と言う立場には、必ず存在する加害者がいます。

加害者は、厚く法の手で守られています。被害者やその家族が、加害者に怒りを向けるのは、それからずっとずっと後の事です。

過酷な日常は容赦なく押し寄せます。看病や治療はもとより、葬儀、報道、裁判と被害者は再び傷つきます。肉体的・精神的負担に加えて、経済的負担も大変なものです。

しかし、失ったものが元に戻る事はありません。

こんな被害者のために、ようやく法律の整備が始まりました。今回の被害者家族は、支援団体の存在を警察から知らされたと聞きました。駆けつけた支援者は、弁護士や医者をはじめ、法律の基礎講座・支援員養成講座や研修を受けた専門家です。徳永さんはVSCO（被害者サポートセンターおかやま）を知り、高原勝哉弁護士の“よりそい”がいかに有意義であったかを、実名をあげて感謝されていました。

私は、そんな活動を続けている25年来の友に感動して、今回一人の市民ボランティアとして、初めてフォーラムに参加しました。

そして、大江健三郎の「人生のハビット（習慣）」—文学からリハビリテーションを考える—のなかに、5段階の考え方の経緯が、述べられている事を思い起こしました。

①「ショック期」（遭遇時のびっくり）、②「否認期」（しなければよかった・自責）、③「混乱期」（どうしよう）、④「努力期」（解決への努力）、⑤「受容期」から“真の受容期”へです。単に諦め、我慢して受け止めるのではなく、この事があったからこそ、知りえた友・知識・感情を踏まえた、もう一つの世界へたどり着きたいものです。とあります。私はこの言葉に何度か励まされました。

行きつもどりつしながらも、たどり着けない日々もあります。この繰り返しが人生かもしれません。

その期・その期—一人ではいられません。必ずその心に寄り添う心が必要です。

今回、被害者の肉声に、悲しい現実がありました。使命感をもった訴えに、報道や裁判の冷酷さ、社会の理不尽さを痛感いたしました。

苦しい体験をお聞かせいただき、ありがとうございました。

今の私には、共に涙することしかできませんが、被害者支援に尽力されている方々を尊敬すると共に、心より応援申し上げます。

（谷 博子）

VSCOこの1

総会

2006年度第2回通常総会 2007年3月17日(土)

早期援助団体指定を目指し、①事務局体制の充実・諸規程の整備②電話相談時間延長の検討③直接支援常時3チーム編成④2つ目の自助グループ立ち上げなどを盛り込んだ2007年度事業計画・予算を可決しました。また、総会終了後に、「DV・性被害者のサポート」についての意見交換会を開催しました。

2007年度第1回通常総会 2007年5月19日(土)

2006年度事業・決算報告を承認しました。また、総会終了後に、小森美登里さんの講演会「優しい心が一番大切だよ…いじめ自死で最愛の娘を失って」を開催しました。

2007年度臨時総会 2007年7月21日(土)

事務所移転に伴う定款変更(住所変更)が承認されました。



電話相談

電話相談の曜日と時間を延長

事務所移転を期に、6月19日から電話相談日を1日増やして月～土の週6日とし、また時間も1時間延長して午後0時～午後4時としました。電話相談(継続相談を含む)件数は、前年度から増えました。詳しくは6ページをご覧ください。



直接支援等

大幅に増えた直接的支援

警察や裁判所などへの付添など、直接的支援は件と、前年度から大幅に増え、その内容も多角化しました。その他間接的支援や犯給金申請の補助などの実施状況は、6ページをご覧ください。



自助グループ支援

性暴力被害と交通事故遺族、2つの自助グループ

2つの自助グループを立ち上げ、月1回程度の開催をサポートしました。また、各自助グループのリーフレットとホームページも作成しました。

ボランティア養成

支援ボランティア養成講座を開催

基礎講座 2007年4月28日～6月30日 全6回
中級講座 2007年7月7日～8月25日 全6回

実施し、基礎講座は17名、中級講座は12名が修了しました。

支援ボランティアの委嘱

電話相談員	10名	電話相談補助員	9名(6名)
直接支援員	7名	直接支援補助員	5名(5名)
間接支援員	2名	自助グループ支援員	4名(3名)
自助グループ支援補助員	1名(1名)		
犯給金申請補助員	3名(1名)	()は新任	



継続研修

支援ボランティアを対象に、継続研修とミニカウンセリングをほぼ月に1回ずつ開催

継続研修は、毎月1回弁護士を講師に、「出所情報」「再被害防止」など事例に沿って行いました。また、ミニカウンセリングも年11回心理カウンセラーを講師に、「面接相談での対応の仕方」などのテーマで行いました。

全国研修

全国被害者支援ネットワーク主催(一部被害者支援都民センターと共催)の全国研修会に参加

- 2007年度被害者支援セミナー……………7/9～7/12 (東京)1名
- 全国ネットワーク秋期研修会……………9/28～9/29 (東京)4名
- 犯罪被害者週間全国大会……………11/25 (東京)2名
- 自助グループ継続研修……………12/11～12/12 (東京)2名
- 全国ネットワーク春期研修会……………2008年2/14～2/15 (長野)5名



年のあゆみ

— 2007年3月～2008年2月 —

フォーラム 講演会

いじめで娘さんを失った小森美登里さんの講演会を開催

2007年5月19日(土)に、小森美登里さんの講演会「優しい心が一番大切だよ…いじめ自死で最愛の娘を失って」を開催しました。

第4回犯罪被害者支援フォーラムinおかやまを開催

2007年11月26日(月)にルネスホールで、「事件・事故被害者の声を聴いてください」をテーマに開催しました。息子さんが放火魔を捕まえようとして刺された岩谷利男さんの講演会や、交通事故遺族や殺人事件被害者遺族それに性暴力被害者の母などの訴えに、120名の参加者が耳を傾けました。



連携

被害者支援を進めるため、県内外の多くの方々との連携を深めました

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 4/12 被害者支援全国ネットワーク事務局長会議(東京) | 10/11 岡山北警察署管内安全・安心まちづくり推進大会 |
| 4/18 日本財団春の交流会2007(東京) | 11/29 県主催犯罪被害者週間事業「0からの風」映画上映会 |
| 4/24 全国ネットワーク研修検討委員会(東京) | 12/1 犯罪被害者週間国民つどい中央大会でパネル展示(東京) |
| 5/16 法テラス岡山と事例検討会 | 12/4 DV相談担当者職員専門研修 |
| 7/1 全国ネットワーク中四国ブロック会議(岡山) | 12/17 県・市交通事故相談窓口担当との懇談 |
| 7/10 岡山県市町村犯罪被害者施策担当課長会議 | 2008 |
| 7/17 こうち被害者支援NPO法人取得記念フォーラム(高知) | 1/10 おかやま犯罪被害者支援・相談ネットワーク実務担当者会議 |
| 7/25 おかやま被害者支援・相談ネットワーク総会 | 1/17 法テラス岡山との意見交換 |
| 9/30 犯罪被害者支援フォーラム2007(東京) | 2/15 全国ネットワーク事務局長会議(長野) |

情報発信

「VSCOだより」を毎月メールなどで発行

VSCOの活動や予定を、関係団体や行政機関、マスコミなどにあて、毎月メールや郵送などで情報発信しています。VSCOのホームページにも掲載しています。



ケーブルテレビなどで電話相談を呼びかけ

県内のケーブルテレビやFM局などで、被害者の方へ向け、電話相談などを広報しています。また、いじめ自死した小森香澄さんの遺した詩をもとにした曲「窓の外には」を「マドンナ・オブ・VSCO」で歌いました。この曲は県警音楽隊のご協力でCDにもなりました。



体制 づくり

念願の事務局移転が実現

手狭なきらめきプラザの事務局に替わり、6月18日に岡山市街地のど真ん中、柳川交差点北東にある「岡山県開発公社ビル」の1階に移転しました。同じビルのお隣は柳川交番です。これにより、電話相談や面接相談を専用の部屋で実施できるようになりました。



事務局体制を強化

8月14日より守安真由美さんを事務局職員として採用し、森陽子事務局長のもと、事務局体制を強化しました。

毎月理事会を開催、各種規程類の整備を進める

VSCOでは総会の他に毎月理事会を開催しています。さらに、相談事業・直接支援・自助グループ支援など7つの委員会を組織し、必要に応じて開催しています。また、早期援助団体指定を目指し、事務処理や情報管理などの各種規程類の整備を進めました。

寄付金 助成金

多額の寄付金や助成金をいただきました

VSCOの活動は、正会員・賛助会員の皆様の会費と、多くの方々からの善意の寄付金・助成金で支えられています。中でも日本財団様には多額の助成金をいただきました。皆様、本当に有難うございました

被害者支援活動の実施状況

2007年4月～2007年12月分

1 電話相談

■月別相談件数(継続相談を含む)

年月	2007・4月	5月	6月	7月	8月
件数	10	19	15	22	11
年月	9月	10月	11月	12月	計
件数	20	29	23	16	165

■男女別相談件数(継続相談を含む)

男	35	女	129	不明	1	計	165
---	----	---	-----	----	---	---	-----

■相談(被害)内容(継続相談を含む)

被害内容	件数	被害内容	件数
殺人・傷害致死	2	交通被害	10
強盗	2	暴力団犯罪	0
性犯罪	50	悪質商法・ヤミ金融	31
児童虐待	0	その他の犯罪	13
暴行・傷害	1	その他	43
DV	12		
ストーカー	1	計	165

2 面接相談

■月別相談件数(継続相談を含む)

年月	2007・4月	5月	6月	7月	8月
件数	0	1	2	1	0
年月	9月	10月	11月	12月	計
件数	1	3	2	0	10

■相談の端緒

電話相談後	10	他機関の要請	0	計	10
-------	----	--------	---	---	----

3 紹介(件数)

VSCOの協力弁護士	3	県女性相談所	1
岡山弁護士会	2	県消費生活センター	35
LA岡山	0	その他の「おかやま被害者支援相談ネットワーク」加盟機関	0
法テラス岡山地方事務所	7	上記以外の機関	1
精神科医	2	計	56
臨床心理士	0		

4 直接支援(回数)

専門家相談への付き添い	14	裁判所との連絡調整	0
専門家との連絡調整	1	裁判所への付き添い	5
被害届・告訴状の作成・提出	0	代理傍聴	0
警察との連絡調整	0	優先傍聴席の確保	0
警察への付き添い	2	遺影の持ち込み	0
被害者連絡制度の利用	0	冒頭陳述の内容告知	0
自宅訪問	1	公判記録の閲覧・謄写	0
身の回りの世話	0	証人の遮へい・ビデオ	0
病院への付き添い	1	リンクなど	0
マスコミ対応	0	意見陳述のサポート	2
検察庁との連絡調整	1	法テラスへの付き添い	1
検察庁への付き添い	1	民事裁判の付き添い等	4
被害者等通知制度の利用	1	仲裁センターへの付き添い	0
不起訴記録の開示	0	出所情報の確保	0
検察審査会への申立など	0	再被害の防止	0
岡山県女性相談所への付き添い	1	物品の供与・貸与	0
保護命令申立のサポート	1	警告等の申出のサポート	0
カウンセリング等	1	VSCOでの打ち合わせ等	12
小計	25	小計	24
合計		49	

5 間接的支援(回数)

自助グループの立ち上げ準備	14
自助グループの開催	9
公営住宅等の確保	4
雇用等斡旋のサポート	0
引っ越し等	0
医療サービスの提供等の仲介	1
計	28

6 犯給金等申請の補助(申請した件数)

犯給金申請のサポート	2
犯罪被害者遺児等に対する奨学金等給付のサポート	0
計	2

相談電話

こころに
(086) 223-5562

毎週月～土曜(正午～午後4時)

祝日・年末年始・お盆は休みます

相談・支援は無料、秘密厳守

報告 ― VSCOにおける自助グループ活動

■交通事故や殺人などの犯罪で最愛の人を奪われ、どうしていいかわからないと一人ぼっちで悩んでいる人達が、同じ辛い状況に置かれている人や、心の傷を乗り越えてきた人達と一緒に心置きなく安心して感情を分かち合い話し合うことによって、辛い思いを乗り越える大きな力になることを願って、VSCOにおける自助グループの活動が始まりました。

現在、VSCOには2つの自助グループ「性暴力被害者の会」と「交通事故被害者遺族の会（もえぎいろの会）」があります。「性暴力被害者の会」の活動については、VSCO機関紙第2号でその一部を紹介してありますので、今回は「もえぎいろの会」について報告いたします。

「もえぎいろの会」は、平成19年9月に発足いたしました。

交通事故で最愛の家族を亡くされた方たちの心の叫びを語り合う場として、現在は、2ヶ月に1回の割合で開催しています。場所はVSCOの面談室、誰に気兼ねをすることもなく電話相談のない時間帯の午前中を当て心置きなく会を進めているところです。会には、交通事故被害者遺族の方たちとVSCOの自助グループ支援員も複数で参加し、共感しあいながら会の運営を支援しています。まだ発足して日が浅いので、手探りの状態ですが、会に参加して少しでも心が安らぎ、生きていく力になればと願っているところです。

■さて、VSCOは「相談支援」「直接支援」「間接支援」「自助グループ支援」等を柱に活動しております。そのうち、自助グループ活動については、自助グループ委員会を設け定期的に会議を持っています。会の運営に関すること、国・自治体の動きや、全国的な活動の情報などを共有しながら、支援員の学習・研修に努めているところです。特に、全国被害者支援ネットワーク開催の全国研修や、自助グループ全国研修会・大会等に参加し、各県の活動に学び情報を共有すると共に、自助グループ発足にあわせて作成したリーフレットを配布、活動をPRしています。

また、平成19年12月には「交通事故相談窓口担当者・相談員の方々との懇談会」を開催しました。岡山県・岡山市・倉敷市からのご参加をいただき、事故相談の現状や県・市の交通対策の動きなどを聞き貴重な学習の場となりました。そして、VSCOの活動・自助グループの活動をご理解いただくことができ有意義な会となりました。

さらに、同じ頃、念願の自助グループのホームページ（性暴力被害者の会 <http://www3.ocn.ne.jp/~vscoa/> 交通事故被害者遺族の会 <http://www4.ocn.ne.jp/~vscom/>）を立ち上げました（VSCOのホームページからも入れます）。内容的にはまだまだの感がありますが、更新を重ねながら充実した内容を目指して行こうと思っています。被害者や家族の方へ、私たちのメッセージが届けばと願ってやみません。

（自助グループ支援員）

魂を揺さぶる書籍の紹介 「STAND 立ち上がる選択」

レイプの被害から立ち上がったフォトジャーナリストによる魂の手記！

思いもよらぬ事件が、思いもよらぬ出発となる……。

レイプの被害から立ち上がりアメリカで性暴力被害者の写真プロジェクトを展開した日本人フォトジャーナリスト。彼女が恐怖、怒り、悲しみ、憎しみを乗り越え、性暴力被害者の声を全米中に届ける活動をするまでの軌跡をつづった魂の手記である。

アメリカでフォトジャーナリストとして働いていた。ある夜自宅に侵入してきた男にレイプされる。全く予期しない理不尽な事件。平穏で安全な日常が一夜にして崩れてしまう。恐怖・怒り・憎しみ・悲しみ・パニックの中での捜査・裁判、転居・転職。乗り越えたと思った矢先の悪夢(PTSD)、うつ。そんな彼女の再生の生き様が克明に記されている。

レイプは魂の殺人である。つまり、人の尊厳を踏みにじり、人権を奪い取ってしまう。被害者支援の最終目的は「victimから survivorへ」であるが、その事とはつまり、そこから新たに自分の価値を見出し前進していくことだ。しかし、その過程で起こる様々な症状(トラウマ、うつ、PTSDなど)に苦しめられ、困難極まることだ。

今の社会には、まだまだ無理解と偏見が多く、被害者はさらに二次被害を受け傷ついている。その意味では、事件に関わるすべての方々に勤めたい。それは、その家族・友達・本人にも(エネルギーのいる仕事だが……)。

一人ひとりの力は小さいが、実はとても大きな意味がある。小さな自分がどんな状況にあっても諦めないで、また、周りも「そうだ」と思うその連鎖反応が、大きな力を生み出していく。

このことは、虐待という負の連鎖反応が次の世代に受け継がれる事を防ぎ、次の犠牲者を作り出す事がないようにという、深い思いが込められている。

レイプで人生は終わらない

「この本が、泣き寝入りを強いられている性暴力被害者へ届くことを願っている。その一人ひとりが、世界でたった一人の特別な存在であること、つらい経験があるからこそ、被害後の人生をもっと輝いて幸せに過ごすことが可能であることに気付いてもらえるよう祈りつつ。」（「あとがき」より）

「STAND 立ち上がる選択」大藪順子（おおやぶのぶこ）著
いのちのことば社フォレストブックス 四六判356ページ 税込 1,575円



犯罪被害者の力になりたいと思う方
窓口や電話で色々な相談を受ける機会のある方

被害者支援ボランティア養成講座 (VSCO主催、岡山県後援) を受講してみませんか?

誰もがいつ犯罪被害者になるかわからない時代です。「安全・安心」なまちにするためには、被害者の方がいつでも必要な支援を受けられるようにしなければなりません。

「誰かと話したい、誰かに聞いてほしい」「事件の夢を見る、事件の現場に近づけない、眠れない」などの悩みを抱える被害者の方の相談にのり、サポートしてゆく。そのためには何が必要でしょうか?法律や制度などの知識が必要です。また、何気ない一言に被害者の方を傷つけ、心を閉ざしてしまうかもしれません。被害者の方の心理を学ぶ事も必要です。

VSCOでは、岡山県の後援で、2008年度被害者支援ボランティア養成講座を開催します。犯罪被害者の力になりたいと思う方、窓口や電話で様々な相談を受ける機会のある方などのご参加をお待ちいたします。詳しくは、ホームページか下記事務局までお問合せ下さい。

基礎講座

定員 50名 講座回数 6回
受講料 6,000円 (資料代込み、初回一括)
申込締め切り 4月10日

- 第1回 4月26日(土)午後 開講式、支援ボランティア体験談、被害者支援の歩みなど
- 第2回 5月中 刑事裁判の傍聴と解説
- 第3回 5月24日(土)午後 交通事故被害者のサポート、講演「家族を飲酒ひき逃げ事故で奪われた立場から」
- 第4回 5月31日(土)午後 性暴力・DV・ストーカー被害者のサポート
- 第5回 6月21日(土)午後 悪徳商法など消費者被害、経済的被害の回復について
- 第6回 6月28日(土)午後 講演「最愛の息子の命を奪われた母の立場から」、閉講式

基礎講座修了者の中から希望で(審査あり)

中級講座

定員 20名 講座回数 6回
受講料 無料

- 第1回 7月19日(土)午後 開講式、特別講演「被害者の心理とその支援」
- 第2回 7月26日(土)午後 電話相談の基礎、自分自身を知りましょう
- 第3回 8月2日(土)午後 電話相談の実際—ロールプレイを通して—
- 第4回 7・8月中 検察庁見学(裁判傍聴を含む)
- 第5回 8月23日(土)午後 直接支援の実際(1)
- 第6回 9月6日(土)午後 直接支援の実際(2)、支援マニュアル、閉講式

本人の希望とVSCOの審査

支援ボランティア補助員として登録

詳しくは、VSCOホームページ

VSCO

検索

VSCOの仲間になりませんか!

VSCOでは、会員を募集しています。

年会費は	正会員	個人1口	10,000円
		団体1口	30,000円
	賛助会員	個人1口	2,000円
		団体1口	10,000円

お問い合わせは事務局か、ホームページへ

全国被害者支援ネットワーク加盟・民間支援組織

(社)被害者サポートセンターおかやま

事務局 〒700-0818 岡山市蕃山町1-20
岡山県開発公社ビル1階
電話・FAX: (086)223-5564
E-mail vsco@vsco.info
公式サイト http://vsco.info